

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401698		
法人名	株式会社 ノア		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	函館市富岡町2丁目21番7号 (電 話) 0138-44-1515		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年5月10日

【情報提供票より】 (22年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費他 25,000円 暖房費(10~4月)10,000円
敷 金	有 (円) ・ 無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無○	有りの場合 償却の有無	有 / 無○
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3月 9日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.2 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西堀病院、函館おしま病院、つしま歯科クリニック、たけだクリニック 吉田歯科口腔外科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

J R五稜郭駅より車で5分ほどの閑静な住宅街にあるホームです。玄関右脇に畑があり、夏には利用者が野菜作りをし、ホームの食材となっています。木造平屋作りの明るい建物で、ユニット間が開閉式のドアで仕切られていますが、行事開催時にはドアを開け広く使用しています。スタッフルームが真真中に位置し、両サイド2ユニットが見渡せるようになっているので、利用者の様子を注意を払うことができます。職員の働きかけにより、町内会よりホーム運営に理解と協力をいただいています。運営推進会議にも出席し、市役所にホーム前の簡易舗装の申請をしていただいたり、災害時の避難場所について前向きに検討し、行事にはボランティアの手伝いなどがあり、協力的に活動していただいています。ホームからも町内行事などに積極的に参加し、相互協力体制があり、利用者も地域の一員として役割を担っています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価の課題であった「家族等への報告」の中で「ホーム便り」の発行については、毎月発行し改善しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	運営者、管理者、職員は自己・外部評価実施の意義と活用を理解し、今回の自己評価は、職員の意見を集約して管理者が纏めています。表出された改善項目は、全体会議で検討し改善に繋げていますが、職員の評価が十分に反映されていません。職員が自己評価に記載することで、気づきや改善点が認識されます。職員の評価が十分に反映される取り組みに期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヵ月に一度開催し、家族、地域住民代表、市立函館保健所、包括支援センター、ホーム職員等の出席があり、利用者の状況、防火に関する報告、災害時の避難場所、行事報告など、ホーム運営等について熱心に討議しケアサービスの向上に活かしています。またメンバーの働きかけでホーム前の簡易舗装申請が実現するなど、ホームの質の向上に繋げています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	「かがやきだより」が毎月家族に送付されています。同時に金銭管理の明細書と領収書、請求書も送付しています。家族の訪問の際には、利用者の近況報告と家族の要望などどう機会を作り、家族の安心に繋げるよう配慮しています。運営推進会議への出席依頼や苦情箱設置、外部の相談窓口についても説明しており、家族の意見を運営に反映させるシステムが作られています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	「かがやきだより」が毎月家族に送付されています。同時に金銭管理の明細書と領収書、請求書も送付しています。家族の訪問の際には、利用者の近況報告と家族の要望などどう機会を作り、家族の安心に繋げるよう配慮しています。運営推進会議への出席依頼や苦情箱設置、外部の相談窓口についても説明しており、家族の意見を運営に反映させるシステムが作られています。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、地域の中で、その人らしくかがやきを持って暮らし続けるための理念となっています。また、職員が話し合い作成した「スタッフ心がけ十カ条」もあり、ケアサービスの基礎となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎日の朝礼前に理念を復唱しています。ケアサービスを行なう上で、常に基本となる理念の確認に努めています。ホーム内の随所に掲示され、パンフレットにも明記されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会の諸行事（盆踊り、亀田川クリーン作戦、ごみ拾いなど）やホームの行事（バーベキューなど）に相互参加があります。ホームの行事には町内会よりボランティアの手伝いもあり、町内会とは相互協力体制にあり、利用者も地域の一員して役割を担っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己・外部評価の意義と活用を理解し、今回の自己評価は、職員からの意見を集約して管理者が纏めています。表出された改善項目は、全体会議で検討し改善に繋がっていますが、職員の評価が自己評価に十分に反映されていません。	○	再度 評価のねらいと活用方法を確認し、職員が自己評価に記載することで、気づきや改善点が認識され、具体的な取り組みに繋がります。今後職員の評価が十分に反映される取り組みに期待します。

函館市 グループホームかがやき

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度開催し、家族、地域住民代表、市立函館保健所、包括支援センター、ホーム職員等の出席があり、利用者の状況、防火に関する報告、災害時の避難場所、行事等報告など ホーム運営等について、熱心に討議しケアサービスの向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは、運営上の相談などや情報交換などで連携を図っています。市が開催する研修会や包括支援センターの研修などに職員を積極的に参加させるなど、サービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「かがやきだより」が毎月家族に送付されています。同時に金銭管理の明細書と領収書、請求書も送付しています。家族の訪問の際には、利用者の近況報告と家族の要望などを伺う機会を作り、家族の安心に繋げるよう配慮しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、意見や要望など話しやすい雰囲気配慮し、運営推進会議にも出席依頼をしています。苦情箱設置及びホーム受付窓口を設け、外部相談窓口についても重要事項説明書に明記するなど、家族の意見等を運営に反映させるシステムが作られています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係でのサービス継続については理解していますが、やむを得ず職員の離職や異動の場合は、適切な引継ぎを行ない、新人職員には先輩職員が情報を伝え、利用者より多く寄り添いコミュニケーションをとる中で、ダメージを防ぐ配慮をしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、ケアの質の保持、向上には職員の質向上の必要性を認識しており、研鑽を勧めています。内部研修については、朝礼時やミーティングの中で随時行なわれ、外部研修にも参加しています。研修記録が作成され、職員の共有となっていますが、年間計画に沿っての内部研修には至っていません。	○	内部研修については、職員へ研修内容のアンケートをとり、テーマを決め、年間計画を作成し、研修を行ないたいとの意向を示しています。積極的な取り組みに期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、南北海道グループホーム協議会やブロック会議などに参加し、交流の機会を持ちネットワーク作りを行なっています。職員も介護支援専門員の研修会に参加し、他のホームの職員と交流、情報交換の機会を持っています。他グループホームのお祭りなどに訪問交流なども行なっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、利用者より生活歴、不安や要望など基本情報を収集し、ケアサービスについて十分な話し合いを行ない、更に時間をかけ面接や、ホーム見学をしていただき、雰囲気になじめるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかんしゃを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴などから、得意なことや好きなことを行なえるよう支援しています。また利用者から、生活の知恵や料理の方法など教えていただく機会があり、男性は畑で野菜づくりをし、ホームの食材となったり、共に支えあう関係が築かれています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が寄り深く関わり、利用者、家族より要望や意向を聞き、共に暮らす中での気づきや思いを把握し、最大限沿えるよう努めています。言葉に表現しにくい利用者の場合にも生活歴、表情などから汲み取るようにし、職員間で情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	当初計画は、利用者 家族の意向を伺い、アセスメントを行ない会議で検討し、計画作成者がまとめています。その人らしく生活できる支援を第一に計画策定し、家族へ説明の後同意をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じで見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始前に暫定計画を作成し、利用開始後に担当者、職員の情報を基に再度検討し見直しをしています。状態により3～6ヵ月の介護計画を作成し、心身の状態変化に応じ、関係者（家族 医療機関 管理者 計画作成者）と協議のうえ随時新たに作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買物、お墓参り、誕生日に五稜郭タワーへ登ったり、ホームにお坊さんがお勤めに訪れるなど、利用者の要望を出来る限り叶えるよう対応しています。介護専門のスキルを活かし、地域の方々の介護の相談などにも応じています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、2週間に一度の訪問診療、年1回の検診、口腔ケアなどの医療サービスがあります。個人別にかかりつけ医の訪問診療もあり、利用者は適切な医療を受けられる体制が作られています。結果は家族にも報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期については、家族及びかかりつけ医と連携を取り、利用者にとってベストな方法を職員全員で模索・検討しています。しかし、ホームの方針が文書化されていません。関係者の意思統一のためにも方針の文書化が必要と思われます。	○	ホームとして、「出来ること、出来ないこと」を明確化することにより、具体的な対応に結びつくホームの方針や同意書を作成することで、ケアの統一が図られますので、取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねるような言葉かけなどをしない配慮を職員へ周知しています。入浴、トイレ介助など同姓介助を基本とし、尊厳をもって対応することを心がけています。個人記録等は鍵付ロッカーへ保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日のスケジュールはおおよそ決まっていますが、起床時間、食事、入浴、散歩、買物など、利用者のペースを大事にして支援しています。		

函館市 グループホームかがやき

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備・食事・片付けを行ない、利用者の好みも取り入れメニュー作成しています。一週間に一度はお刺身をつけたり、刻み、とろみ食へも対応しています。行事食やお酒を楽しめるようにしたり、外食（年4回程度）など、変化をつけ食事を楽しめるよう配慮しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来る体制になっています。希望日、時間など調整し平均週3回は入浴しています。利用者の好みの音楽をかけたり、入浴剤を使用したり、お湯は一人ひとり取り替え清潔に入浴できるようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴など把握し、一人ひとりの役割や出番を作るようにしています。（新聞とり、日めくり、カーテン開け閉め、包丁とぎ、料理の下ごしらえなど）地域のボランティアによるフラダンス、幼稚園児の訪問など楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により買物、散歩など出かけています。車椅子の場合でもホームの周りを一周したり、皆で亀田川の川原へ散歩など出かけるよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていません。玄関には鈴をつけ、利用者の出入りは居間・スタッフルームより見渡しの良い位置にあり、職員間で連携をとりながら見守りしています。夜間は防犯のため20時から翌朝6時30分まで施錠しています。		

函館市 グループホームかがやき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回（4・10月）夜間想定を含め、町内会の協力もいただいて避難訓練を実施しています。避難場所の確保、自動火災通報装置、火災報知設備の操作訓練、通報文例を機器に張り付けています。町内会も協力的で、役割など更に運営推進会議で検討する予定です。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分摂取量は記録されており、様子を観察しながら、一日の量を確認しています。食事制限のある場合など、ドクターの指示により栄養補助食品など使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体がとても明るく広々としており、居間は、ユニット間に開閉式のドアがあり、開くと広く使用できるようになっています。台所は対面式で、居間には季節感が感じられる利用者の作品を飾り、ソファもゆったりと寛げる配置になっており、利用者は居室に居るより居間で長く過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や、家族の写真、愛着のある物、仏壇などを配置し、仏壇のつみだんご作りを支援し、お供えしたり、利用者の個性を活かし、居心地よく過ごせる居室になっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。